

2012 園長だより6月

もめごととは大切な経験

＝人と関わる力を育成＝



「もめごと」と聞くと、いささか穏やかではありません。

大人の世界では、争い・衝突・いざこざ・騒動・紛争・悶着・ごたごた・波乱・トラブルなど、たくさん類語があります。いずれも、良いイメージの言葉ではありませんネ。

しかし、子供の世界では、成長の過程の大切なワンシーンです。

「先生、自転車貸してくれないんだよ！」園庭で遊ぶ園児の中から、担任の先生のところへ走っていく△△ちゃんがありました。

「なあに、どうしたの？」先生は優しく声をかけ、その子に寄り添いました。

「あのね、〇〇ちゃんが、時間過ぎてもずっと乗ってるの」来た方を振り返りました。

その子はあわてた様子で、自転車をこいで近寄ってきました。

「いま、貸してあげるからサー」先生の視線を避けてそう言いました。

「〇〇ちゃん、貸してあげないって、ホント？」先生が優しく問いかけます。

「いま、貸してあげるところなの」その子は小さな声で言いました。

「みんなで仲良く使おうね」と言うと、

「ごめんなさいー」と反省の言葉が返ってきました。

「いいよ」と素直に△△ちゃんは許しました。先生はすかさず言いました。

「偉いね、〇〇ちゃん。すぐに謝ったし、許した△△ちゃんもいいよ」と二人をほめました。

もめごとでいやな思いをした後に、仲直りでホッとする。この両方の感情を経験することで、人の気持ちを感じ取れる心が育っていきます。子供と信頼関係ある先生による見守りも、大切な要素でした。

園長 今泉文彦